

議員特別研修実施報告書

報告議員名	佐藤 誠洋	報告日	令和4年9月21日
調査研究・研修等 名称	大分県国東市・別府市における先進事例の調査		
実施日	令和4年7月6日 ～ 令和4年7月8日		
会場	大分県 国東市・別府市		
調査研究・研修等の 概要	<ul style="list-style-type: none"> ・大分県国東市 資金調達・運用管理の仕組みおよび運用戦略等について ・大分県別府市 デジタルファースト推進計画について 		
調査研究・研修等の 成果と感想	<p>一般質問で取り上げた、大分県国東市の公金管理について、翌日は、お隣別府市で、「デジタルファースト推進計画」、最終日は、大分空港敷地内にある直売所の視察・研修でした。</p> <p>・大分県国東市 資金調達・運用管理の仕組みおよび運用戦略等について 国東市では、カリスマ財務管理専門員 益戸 健吉氏から直接講義を受けました。3時間にわたる研修でしたが、「横手市財務管理改善のために ～広義のコンプライアンスの視点から～」という題名の詳しい資料（33ページ）に基づいての説明であったことから、とても分かりやすく大変参考になりました。（研修前に益戸さんから横手市に質問が多岐にわたり出されていて、その解答を踏まえたテキストを作成されていた。）</p> <p>ポイントは、「公金の一括管理・運用」、「そのための条例・規則整備」、「繰り上げ償還・据え置き期間をおかない起債」（我々一般人のかまどと一緒に考え方）です。</p> <p>根本に「地方自治体の使命」について、職員が同じ方向を向いて理解しているのか？が重要なポイントと感じました。</p> <p>また、国東市はふるさと納税にも力を入れており、人口26390人（令和4年4月1日）と横手市の半分以下の人口規模にもかかわらず</p>		

ならず、2017年には32億4千万円、コロナの影響があっても、2020年25億3千万円、2021年20億6千万円。直近6年間で、874億58百万円と驚く実績です。

運営は業者に丸投げせずに、職員数を増員して、「自前」でやっている。そのことで、手数料はもとより様々なメリットがあり、良い循環となっているとのことでした。

「いかに『自主財源確保』について、覚悟を持って取り組み、実績を出していることか!」「外から稼ぎ、内から出さない。」を徹底されていることを感じました。

最後に、「準公金の対応」について、不正発生未然防止の視点から詳しい説明がありました。

大変勉強になった研修でしたが、「やるのは市長当局」です。益戸先生は、要望があれば行く、とおっしゃって頂きました。先ずは、職員の皆さん方で研修されたらいかがでしょうか。

・大分県別府市

デジタルファースト推進計画について

この計画は、市長の号令の下、急遽やることになったそうですが、大分県内ではトップを走っている自治体で、国東市の益戸専門員からも、「できれば私も一緒に行きたい」と言われました。

大きな予算を掛けているのか、と質問しましたが、約2000万円で、既存のアプリ等を職員の皆さん方（各部署からの有志）で開発しているとのこと。ゼロ予算での事業も多数ありました。

また、市長は、この計画により職員数は減らさず、その他業務で、「人」でなければならぬ仕事をやってもらう、とのことでした。

機械的に処理できる単純作業は、ロボット化。職員は、打ち間違っただけではいけないというストレスから解消されて、時間的にも余裕が生まれ、「企画力が向上した。いい仕事ができるようになった。」との感想を持たれていました。

なお、スマホ等の操作になれていない市民向けには、講習会を開いている。サービス格差を少なくするようにしているとのことでした。

ここでも「人」でした。「カリスマ職員」の存在が大きいと感じました。

※1調査研究・研修等の成果を証する書類の写しを添付してください。

※2調査研究・研修等に要した費用の支出を証する書類を添付してください。